

所在地：和歌山県有田川町

選定年月日：平成25年10月17日

面積：110.7ha

選定基準：二(一)(一)(八)

(1) 概要

有田川(ありだがわ)の上流域では、穿入蛇行により形成された河岸段丘が形成されており、広く水田耕作が行われています。中でも、河川蛇行部へ弧状に張り出した段丘地形において棚田が展開する蘭島は、審美的な観点からも価値が高いものです。

当地の開発は中世の阿弓河荘(あてがわのしょう)に遡りますが、現在に繋がる土地利用の基礎が築かれたのは、大庄屋笠松左太夫(さたゆう)が集落・農地開発を行った近世です。明暦元年(1655)には、有田川支流の湯川川(ゆかわがわ)に井関を設け、湯(ゆ)と称する灌漑水路網を整備することにより、水田化が進展しました。それぞれの湯では田人(たど)と呼ばれる水利組合が組織されており、現在も部頭(ぶとう)(水利組合長)の下に水守(みずもり)が定められ、水路の補修・清掃・管理等が共同で行われています。また、耕地に限られる当地では、畦畔や集落の後背斜面等も山畑に利用されました。かつて和傘に用いられた保田紙(やすだがみ)の原料であるヒメコウゾのほか、シュロ・チャノキ・サンショウなど、特徴的な植生を確認することができます。

このように、蘭島及び三田・清水の農山村景観は、有田川上流域に形成された独特の河岸段丘地形において営まれてきた農業及び山の利用による文化的景観です。



蛇行する有田川に縁どられた蘭島



山端を流れる上湯(うわゆ)

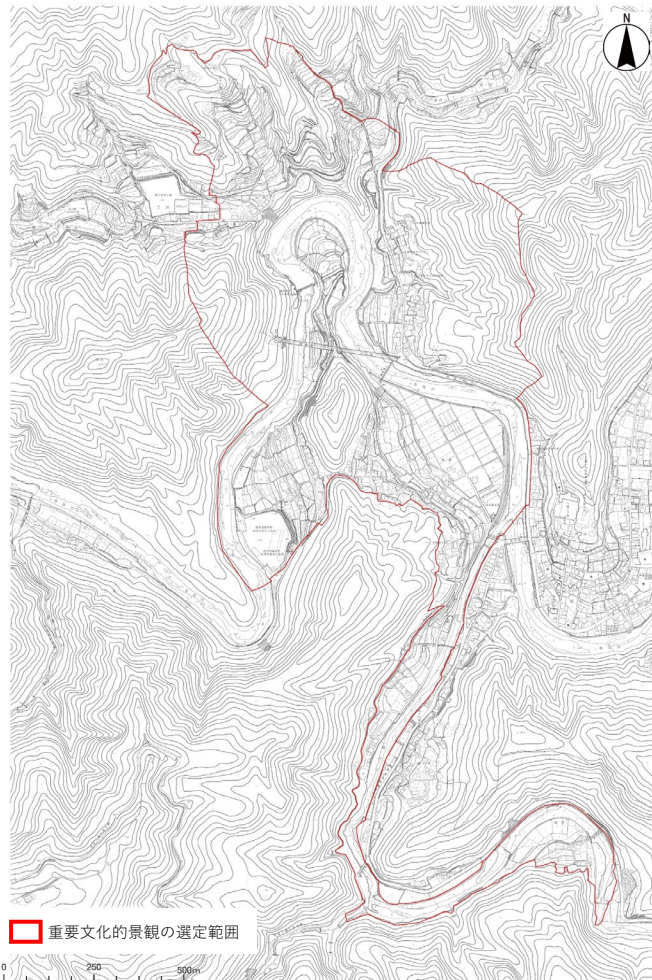


蘭島での田植え体験



山際に家屋を並べる集落

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：212件
- 景観重要公共施設：3件

（３）選定による効果

少子高齢化、過疎化が進み、棚田を含めた集落を維持することが大きな課題となっています。文化的景観の制度を活用し、地域の要となってきた民家やお堂を修理し、地域内外の人々の集う場としての再生を通して、地域の魅力の再発見や、来訪者が滞在し、住民の関わりの中で文化を体験できる仕組みづくりが実現しています。加えて、棚田の小規模な災害復旧や、歴史的な水路の修理など、他の制度で対応しづらい事業を実施し、営農継続にも寄与しています。



空き家を修理し、子育て世帯がUターン



小学校の農作業体験

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 蘭島及び三田・清水の農山村景観保存計画（平成25年3月、有田川町教育委員会） ※調査報告書を含む
- 国選定重要文化的景観「蘭島及び三田・清水の農山村景観」整備計画 サイン計画編（平成26年3月、有田川町教育委員会）
- 国選定重要文化的景観「蘭島及び三田・清水の農山村景観」整備活用計画（令和2年3月、有田川町教育委員会）
- ホームページ

<https://www.town.aridagawa.lg.jp/aragijimateikan/index.html>

（５）活用事例

事例30-01 ①

修理を通した、地域の要となる集いの場の再生支援

文化庁補助金

●行政による取り組み

歴史的にも、地域の要として集いの場とされてきた2つの建物(重要な構成要素)の修理が、町の支援のもと行われ、地域の誇りと活気がさらに高まりました。

一つは、観音堂です。18世紀に建立された歴史あるお堂で、毎年のお祭りが今も続く、大切な地域のシンボルです。地盤沈下やシロアリ被害が進み、住民に対するアンケートや聞き取り調査においても、修理が最重要課題とされていました。

町は、有識者会議や、地元で組織された修理のための実行委員会など地域住民との協議により、定めた方針をもとに事業を実施し、耐震性や利便性の向上も実現しました。

もう一つは、旧笠松家住宅です。茅葺の母屋を中心に蔵や畑を備えた地域の民家の特徴をよく残しています。地域の名士の住宅であり、地域の集会所としても活用されてきました。

地域で活用してほしいという所有者と、地域の交流拠点を造りたいという地元のまちづくり会社を、町が引き合わせました。まちづくり会社に対し、町が支援を行い、来訪者が宿泊もできる拠点として再生されました。（事例30-01②参照）



修理前。老朽化が進み、傾倒が進行



修理後。耐震性、利便性も向上（平成29年3月竣工）



【左】地元でも組織を立ち上げ検討
【右】全戸配布のニュースで修理に関する情報共有



修理時に新発見もあり、観音堂の重要性を再認識

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例30-01 ②

まちづくり会社による、茅葺き民家の修理を通した、宿泊・暮らしの体験プログラムの提供

文化庁補助金

●住民や団体等による取り組み

歴史ある旧笠松家住宅(重要な構成要素)は、長年にわたり空き家となっており、維持管理上の問題も生じていました。まちづくり会社である株式会社地域創生が、町の支援を得て平成29年度に修理を実施し、来訪者が宿泊・滞在もできる「笠松亭」として活用を行っています。

笠松亭は、重要文化的景観をはじめ地域や建物の歴史を伝えるビジターセンターや、地域の子どもたちが故郷の歴史や環境を学ぶ拠点としての役割も担っています。

また、来訪者が、散策、伝統料理、紙漉きなど、住民の暮らしそのものを体験として提供するプログラムの拠点となっています。

この実現により、地域内外の人々が関わる文化的景観の活用のあり方が、具体的に共有されています。加えて、宿泊料が体験プログラムの実施や建物の維持管理にも充てられるなど、財源を確保する仕組みともなっています。

団体等情報：笠松亭／<http://ag-w.org/kasamatsu>



笠松亭ホームページより

宿泊客の声

昔の家の姿がそのまま残されていることに感激しました。
昔の建物や田舎の風景が新鮮でした。
棚田や紙漉きなど、かつての自然をいかした人々の暮らしに感心しました。

体験プログラム提供に携わる住民の声

過疎化や高齢化が進行する中、観光客が増えていることはとてもありがたいです。たくさんの人を見ると嬉しい気持ちになります。

まちづくり会社「株式会社 地域創生」の声

建物に加え周辺の畑などの維持管理は大仕事ですが、利用者や所有者に喜んでいただき、景観保全の理解にもつながっています。

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
共有

④ 魅力を
引き出す

⑤ 財源と
運用

⑥ 人づくり